VOL.39 2018.1
平成30年1月発行

東京奥能登応援団だより

東京奥能登応援団事務局
〒102-0093 千代田区平河町2-6-3
都道府県会館14階　石川県人会内
TEL:090-8876-4901

洋画家：岡崎洋児氏〈珠洲市狼煙町〉

こらむ　アイデンティティ 37

「ふるさと」とは…〈その4〉
―室生犀星のふるさとへの愛着と憧憬―

「ふるさと」を語るとき、忘れてならないのは金沢が生んだ文学者室生犀星『抒情小曲集小景異情』のよく知られた巻頭詩である。

ふるさとは　遠きにありて　思ふもの／そして　悲しく　うたふもの／よしや／うらぶれて　異土の乞食となるとも／帰るところに　あるまじや／ひとり　都の　ゆふぐれに／ふるさとおもひ　涙ぐむ／そのこころもて／遠きみやこに　かへらばや／遠きみやこに　かへらばや

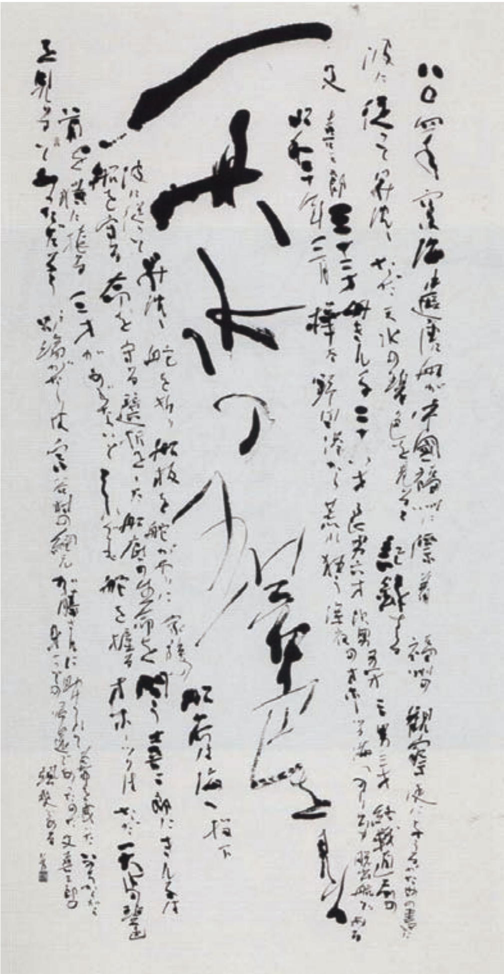
詩情は読み人に任せおき、作詞は犀星が志を得ず苦闘時代実家に借金を頼みに帰省し思いとどまった頃だといわれている。その愛憎の複雑な思いを感傷と反抗心のないまぜの中でふるさとへの思慕と憧憬で歌い上げているように思える。

吟味して読めば、フレーズ「そのこころもて」と叙した前後で事物の呼称表記に変化がある。つまり、「都・帰る」という漢字表記による現実の固く閉ざされた東京のイメージでしか表せない「都」が、「みやこ・かへらばや」と平仮名書きをすることによって、そのような固い都ではあるが故郷を遠く離れてみると、まるでふるさとに似た懐かしくやわらんだ「みやこ」というユートピア形象を創り出そうとしているようである。

ここには、話者が「都」をいといながらも、「みやこ」を恋い慕う矛盾する心情がふるさとの残像とダブってうたわれているといえようか。

（押上武文〈府中市　宝立町出身〉）

書家 船本芳雲さん 故郷への郷愁を書す（その4）



（136.5×70センチ）

父の颯爽

八〇四年空海遣唐船が中国福州に漂着　福州の観察使に与うるがための書に　波に従って昇沈したただ天水の碧色を見ると記録する　父喜三郎三十二才　母きん子二十八才　長男六才　次男五才　三男三才　終戦直前の昭和二十年三月　樺太野田港から荒れ狂う深夜のオホーツク海へのり出す脱出航である

波に従って昇沈し　舵を折り船板を舵がわりに家族の船荷は海に投下　船を守る命を守る選択をした　船底の生命を問う喜三郎にきん子は首を横に振る　三才があぶないと　それでも舵を握る　オホーツクはただ天水の碧色を見るであっただろう　炉端がたりは宗谷村の網元加藤さんに助けられて幕を曳いたいのちからがら　身一つでの帰還であったのだ　父喜三郎の颯爽である

（240×480センチ）

奥能登突端行

禄剛崎の
灯台は吹雪いて
海に沿うた
道を
バスは行く

船本芳雲（洋治）
樺太生まれ
宝立町出身
飯田高校卒

連載完

東京珠洲会の総会80人で開催される

11月17日浅草ビューホテルにおいて、第55回東京珠洲会定時総会及び懇親会が開催された。珠洲からは、泉谷満寿裕珠洲市長、赤坂敏昭珠洲市議会議長、矢野好二珠洲商工会議所副会頭、藤野裕之珠洲物産協会会長、田崎正彦珠洲観光協会観光交流部会長らが参加した。開会の挨拶に立った笠原英二会長は、「奥能登国際芸術祭に帰省し、キリコ祭り、ヨバレを楽しんできました。県外ナンバーや若い年代の観光客の姿もあり、ふるさとの創生、活性化が感じられた」と挨拶した。来賓の泉谷市長は「芸術祭には、目標を上回る7万1千人の来場者があった。アートで表現された珠洲の伝統文化、豊かさの潜在力が広く、遠くまで伝えられた。新聞でも地域の方々による〝よってかし、飲んでかし〟のおもてなしが報じられた。3年後の開催にも自信を持って取り組みたい。ふるさと納税もよろしく」と挨拶した。来賓紹介の後、参加した平成29年の日展洋画特選の鍵主恭夫氏、書道家の船本芳雲氏の二人が珠洲出身芸術家として紹介され拍手が沸いた。

懇親会では、地酒を堪能しながらふるさと談義に花を咲かせ、キングレコード歌手・ササキホコさんのふるさと歌謡やアントニオさんのバイオリン即興演奏のアトラクションを楽しんだ。

能登立国1300年

珠洲の海に朝びらきして漕ぎ来れば
長浜の湾（うら）に月照りにけり〈大伴家持〉

平成三十年から逆上ること千三百年。時は奈良時代。大和朝廷の藤原不比等政権は七一八年（養老2）、越前国の羽咋・能登・鳳至・珠洲の四郡を割いて能登国を置いた。ちなみに加賀国の立国は八二三年（弘仁14）だから、能登立国より一世紀も後のことである。

律令国家が新たに能登国を立てたのは北日本への統治圏拡大や、東アジア諸国との交渉のための前進基地として重要視したとみるのが一般的だ。ところが、七四一年に能登は越中国に併合され、再び能登国が復活したのは十六年後の七五七年のことである。

冒頭の歌は、越中四郡と能登四郡の八郡を束ねる越中国守の大伴家持が七四八年（天平20）の春、能登巡見の旅を終えて国府（現在の富山県高岡市伏木）に戻った折に詠んだもの。万葉集巻17に『珠洲郡より発船して治府（国府）に還りし時に、長濱の湾に泊てて、月光を仰ぎ見て作る歌一首』とみえる。

家持が能登を巡る中で『当時当所にして属目して』作ったと万葉集にみえる歌は五首。能登巡見の最後に詠んだ「珠洲の海に・・」には、国守の力量が問われる管内視察を無事 終えた安堵感と、能登の旅で得た感動の余韻 が月の光の中で鎮まっている。奈良の都で七一八年に生れた家持は古代豪族の大伴家の嫡男で、後に万葉集の編纂にも深く関わった高名な歌人。誕生年が能登立国と同じというのも奇しきことである。

能登千三百年の歴史の中で、半島を一巡したトップは二人。一人は大伴家持。もう一人は幕末の一八五三年（嘉永6）に七百人をこえる随行人を引き連れ、二十二日間をかけて海防視察を中心に巡った十三代加賀藩主の前田斉泰である。奥能登での宿泊地は輪島市で五泊、珠洲市で三泊、能登町で二泊、穴水町で二泊している。

以来、歴史の織りなすさまざまな能登模様を編みながら、時代は流れた。そして立国千三百年のプレ年にあたる平成二十九年の秋、半島最果ての珠洲市域をそっくりそのまま舞台にして、奥能登国際芸術祭が五十日間にわたって開かれた。国内外の精鋭アーティストらが地域の風土と一体化して、里山里海の大キャンパスに明日の「能登びらき」をおおらかに表現して、国内外から脚光を浴びた。

芸術祭にみえた人は予定の二倍に膨らむ盛況だったが、成果はそのようなちっぽけなものではないだろう。奥能登が秘める無限大の魅力と可能性を、私たちに開示してくれたのである。作品群の全てが地域をモチーフにして生れたもので、文句なく楽しく、わかりやすいものだった。

このような芸術祭ができるのも、奥能登の悠久な歴史と風土があってこそだろう。能登立国千三百年の節目のことし、人が誕生日を祝うように、能登に住む人たちがこの地にくらしていることに感謝し、能登の魅力を磨き上げ、国内外の人々に感動という宝物をお裾分けしていこうではないか。

（藤平朝雄
石川県観光スペシャルガイド
ほっと石川観光マイスター
能登半島広域観光協会相談役）

飯田町春日神社境内の家持歌碑

ふるさと行事のご案内

1月10日(水)	オーケストラアンサンブル金沢東京公演	千代田区・紀尾井ホール
1月10日(水)～15日(月)	加賀百万石物語	松戸市・伊勢丹松戸店
1月12日(金)～21日(日)	ふるさと祭り東京2018（1/15.16加賀獅子）	東京ドーム
1月17日(水)～22日(月)	加賀百万石物語	さいたま市・伊勢丹浦和店
1月19日(金)～21日(日)	いしかわ・かなざわ観光物産市	平塚市・市民プラザホール
1月21日(日)	石川県人会定期総会・新年祝賀会	ホテル・ルポール麹町
1月24日(水)～29日(月)	第13回金沢・能登物産展	熊谷市・八木橋
2月9日(金)～11日(日)	いしかわ伝統工芸フェア2018	東京ドームシティ・プリズムホール
2月10日(土)～12日(月)	湯島天神梅まつり・能登町物産展	文京区・湯島天神
3月19日(水)	オーケストラアンサンブル金沢定期公演	港区・サントリーホール

能登料理のお店紹介

八王子の居酒屋
里山里海　奥能登や

◆お店レポート

「奥能登や」の店名からして興味しんしん、わくわく感で八王子の北口の商店街を抜けてお店に。まず店内に入ると能登の観光ポスターが目に入ります。あばれ祭り、恋路海岸、とも旗祭りなど、もう気分は〝奥能登〟です。もちろん能登杜氏が技を込めた地酒も揃っています。食材は能登町から取り寄せたもので、野菜は能登町柳田のてっからの里（山岸昭平さん）、岩井戸農産（表野哲也さん）、魚は紙子鮮魚、第3松福丸（藪下哲也さん＝元松緑）ほか、日月豆腐からの直送品です。メニューを見ると、寒ブリは当然のことながら、かすべの唐揚げ、山芋のいそべ和え、エーと唾を飲み込んでしまいました。「お味は」なんて聞かないで、とにかく行ってみてください。

◆お店から◆

●オーナー
山内 清さん
（相模原市出身）

能登町の山岸さんと知り合って、能登の食材の店を思い立ち（平成29年）3月に「奥能登や」をオープンしました。新鮮な海産物、野菜料理を提供している多摩地区で唯一の能登料理店です。お気軽においでください。30人様の貸し切りもOKです。ふるさと会、同窓会にもどうぞ。

山岸さんと山内オーナー（輪島朝市で）

能登の美味しいお魚やお酒がたくさん揃っています。ふるさとを感じるお店です。皆さん来てねー！

アルバイト
黒川美憂さん
（七尾市出身・中央大学1年生）

八王子市三崎町5－23
サンプラザ24　2階
電話042―655―2084
FAX042―634―8187
定休月曜日
営業時間16:00～25:00
姉妹店：雪月花　橋本店
相模原市緑区橋本3-17-4
橋本第一ビル8階
電話　042―703―6173

輪島市　穴水町　ふるさと行事

事務局から

能登の冬は、降雪も含め寒波が厳しいことは皆さんご存じのとおりです。日本海から吹き付ける寒風を凌ぐための“間垣”や“波の華”に象徴される冬の風景が目に浮かびます。その一方、冬は、北陸のＡＫＢ＝甘エビ・かに・ぶり、能登のＡＫＢ＝あんこう・カキ・ビーフなどの食材が最も美味しくなるシーズンです。

冬は気象環境から出不精になりがちです。荒天で、のと里山空港が閉鎖になるのではと漠然と懸念を持つ方もいます。しかし1月から3月の3ヶ月の欠航は、昨年は1便、一昨年9便、その前年0便で，全国的にみても欠航率が低い優良空港であります。能登杜氏の技で仕上げられた新酒、評判が高まるワインもあります。温泉も名湯和倉温泉だけでなく、輪島、能登、穴水、珠洲どちらでも癒やされます。冬の奥能登の楽しみ方を皆さんで大いに宣伝しましょう。

〔東京奥能登応援団〕　代表／光眞　章　副代表／下平　康次